

書名 項目	<h1>新しい科学</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各節で「課題」や「課題に対する結論を表現しよう」が設定されている。「チェック」「学習内容の整理」「確かめと応用」で振り返り学習ができ、本文の参照ページや巻末に解答が示されていることで復習しやすくなっている。また、「基礎操作」を観察・実験の前に設け、基礎的な技能を習得しやすいようになっている。さらに「例題」「練習」「確認」で生徒のつまずきに対応している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○観察・実験において、「結果の見方」や「考察のポイント」が示され、結果の分析や考察のための視点を示すことで、結果を事実として認識させ、根拠に基づいて考察できるようになっている。また、巻頭の「考察はここをおさえよう」「考え方が異なったら、考えを言葉にして議論しよう」のほか、「レポートの書き方」により、科学的に表現する手順や方法が示されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○導入部において、身近な事物・現象を取り上げ、興味・関心を高め、主体的に取り組めるようになっている。また、各節冒頭の「問題発見・レッツ スタート!」によって問題に気づき、目的意識をもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫> ○巻頭の「科学で調べていこう」で探究の流れがわかり、各節ごとにマークと脚注のフローチャートで探究の過程が示されている。特に課題設定から学習内容のまとめまで、自ら規則性等を発見できるように配慮されている。また、紙面レイアウトにおいて、観察・実験の手順と結果が同一見開き上に配置されないように工夫されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○学習の導入場面で、身近な事物・現象の観察が多く取り上げられている。また、「つながる科学」「from Japan 世界につながる科学」で学習内容と日常生活や社会との関連を見いだすことができるように配慮されている。さらに、他教科で学習した内容については「〇〇で学ぶこと」とマークを付け、教科間の関連を図っている。</p>	
資 料	○多彩な写真やイラスト・読み物を豊富に掲載し、科学が身の周りにあふれていることや科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫がなされている。 ○巻末には「自由研究」「基礎操作」等がまとめられ、地学単元のペーパークラフトも付けられている。また、動画による内容解説や練習ドリル等のデジタル資料もある。	
表記・表現	○本文などの主要部分にはユニバーサルデザイン書体、重要語句や式には太字のゴシック体を使用している。特に重要語句には振り仮名をつけ、式は単位をつけて下地の色を変えた枠で囲んで見やすく表記している。 ○グラフに用いる線が複数ある場合は線の色や線種を変えたり、線の意味を言葉で説明したりしている。また、単元ごとに統一感のある配色がなされている。	
総 括	○課題設定から学習内容のまとめまで、巻頭に示された探求の流れで構成されている。 ○単元末に「学習内容の整理」「確かめと応用」「確かめと応用 活用編」が設定されているため、章末問題が充実していて自学自習に対応し、復習しやすくなっている。 ○本文の改行の幅、写真や図のレイアウト等、見やすく、学習しやすいデザインになっている。また、重要なことが焦点化されてわかりやすくなっているほか、資料が豊富で実験への興味を高めたり、科学の有用性を十分に伝えたりすることができる内容である。	

書名 項目	<h1>理科の世界</h1>	4 大日本
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○知識の定着を図るために、章ごとの「章末問題」や単元末の「まとめ」及び「単元末問題」が掲載されている。また、「基礎操作」では、ウェブ動画や図・写真及びイラストを用いて手順が分かりやすくなっており、器具の基礎的な操作が身に付けやすいように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○観察実験に設けられている「結果から考えよう」では、考察するポイントが示され、次ページに結果の例を示すことで、考察する力を醸成できるように工夫されている。また、「ふりかえろう」では、自分の言葉でまとめさせたり、さらに単元末の「読解力問題」でも既習事項を活用して考えたり表現したりすることで、思考力や表現力を育成できるよう工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「問題を見つけよう」や「やってみよう」があり、主体的に学習できるような工夫がなされている。また、生命の連続性や神秘性に思いをはせたり、「環境マーク」を付けて生物と周囲の環境との関係を考える活動を通して、生命を尊重する態度を養おうとする工夫がみられる。</p> <p>＜科学的に探求する学習活動の充実を図られるための工夫＞ ○「理科の学習の進め方」が示され、課題から考察、結論までの探究の過程が具体的でわかりやすくなっている。また、「問題を見つけよう」「計画を立てよう」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって実験・観察ができるように配慮されている。</p> <p>＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞ ○「くらしの中の理科」、「Science Press」、「科学のあしあと」など、豊富な資料が掲載されており、理科の有用性を感じられる作りになっている。また、小学校の学習内容、算数・数学や保健体育などと「つながる」というマークで関連付け、他教科との関連を図りやすくしている。</p>	
資 料	<p>○ダイナミックな写真を使用し、図や表の形式を統一し、分かりやすい工夫がされている。</p> <p>○イラストは、リアルタッチや線画など場面に応じて効果的に使い分けられており、見やすい。</p> <p>○専用アプリを用いた動画による説明やWEBサイトを活用したデジタルコンテンツがある。</p> <p>○防災や減災教育と関連付ける資料が充実している。</p>	
表記・表現	<p>○難解な用語や定義などは、できるだけ使用しないよう配慮がなされている。また、小学校で学習する漢字以外を使用するときは、原則としてふりがなを付け、式には単位を付けている。</p> <p>○カラーデザインやフォントは見やすく、単元ごとのインデックスの色を変えたり、全領域で課題や実験になどの色を統一して表示したりするなど、細かな工夫が見られる。</p>	
総 括	<p>○生徒目線で構成され、無理なく学べるように工夫されている。特につまづきやすいポイントには補足説明をしたり、計算が必要な場面では基礎的な計算方法を参考として載せたりと、学習がスムーズに進む配慮がされている。また、単元末に「まとめ」「単元末問題」を示している。</p> <p>○主体的、対話的で深い学びを意識しており、積極的に話し合いや学び合いができる構成である。</p>	

書名 項目	<h1>中学校科学</h1>	1 1 学 図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○1時間ごとに「この時間の課題・まとめ」が示されていたり、「できるようになりたい目標」が掲載され、目標が捉えやすい工夫が見られる。また、章末のQRコード教材として、「学習のまとめ」と「単元末問題」が掲載され、家庭学習等に用いることができるようになっている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○観察・実験では「結果」と「考察」の欄が分けられ、結果に基づいて考察ができるように工夫されている。また、「しっかりふり返り」では自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力などを育成できるよう工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各章の始めと終わりに「Can-do List」が掲載され、生徒が見通しを持って主体的に学習を進めることができるようになっている。また、巻頭の「理科のトリセツ」では、学習を探究的に進めていく方法や教科書の使い方が分かりやすく記載されている。</p> <p>＜科学的に探求する学習活動の充実が図られるための工夫＞ ○「問題発見」や「しっかり仮説」、「しっかり計画」、「しっかりふり返り」などが掲載され、探究のそれぞれの段階の重要項目が示されている。また、科学の意義や条件制御などの、探究活動に必要な視点がマークで示されており、より探究的な学習ができるように工夫されている。</p> <p>＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞ ○科学に関連する仕事に就いている人を紹介する「ミッションX」が掲載され、学習内容と職業、日常生活との関連が示され、科学の有用性が実感できるよう工夫されている。また、各教科で学習した内容について「つながり〇〇」とマークを付けて、教科間の関連を図っている。</p>	
資 料	○単元末の「理科マスター」で学習内容を深めて更なる課題に気づけるようにしたり、次の学習意欲を高めたりするような資料が掲載されている。 ○防災や減災、SDGsについての記載があり、学習内容と最新の話題とを関連付け、「サイエンスカフェ」では、学習内容の系統性や全体像などを把握できるようになっている。	
表記・表現	○本文の内容が厳選してあるので、理解させたい事柄が端的に表現され、明確になっている。 ○従来のカラーユニバーサルデザインや、ユニバーサル書体の使用に加えて、「紙面デザインをひかえめにする」、「重要な内容を箇条書きにする」など、生徒目線に立って編集されている。 ○写真が良く、配色や記号・マークに統一性が見られ学習のステップがわかりやすくなっている。	
総 括	○「探究活動」を意識したつくりになっており、問題提起から考察、結論までの科学の流れを身につける事ができる教科書である。また、「仮説」と「検証計画」にも重きをおき、課題に対して予想をしっかり立て、解決するための観察実験計画を自ら立てられるよう工夫されている。 ○教科書が従来のものよりもコンパクト化しており、より内容を厳選した教科書になっている。また、巻末にホワイトボードとして使えるアイデアボードが付けられ、話合いに活用できる。	

書名 項目	自然の探究 中学理科	17 教 出
内 容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」、章末に「要点をチェック」、学年末に「学年末総合問題」を配置し、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っている。 ○観察・実験では手順をステップに分け、観察・実験の近く及び巻末資料に「基本技能」がわかりやすく図解されている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○観察・実験では、「結果」と「考察」で結果から考えるポイントが示されている。 ○巻頭の「探究の進め方」で、探究の流れや方法を示している。また、「活用しよう」や「考えよう」では、自分の言葉でまとめさせ思考力・表現力の育成を図っている。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○どの単元においても、巻頭で示した「探究の進め方」に基づく共通した構成がなされており、生徒が学習を進めやすくなっている。 ○「やってみよう」や「チャレンジ」などの項目があり、主体的に学習が進められるようになっている。また、「学習前の私」「学習後の私」で日常生活と関連づけながら生徒の変容を認識させる場面が設けられている。</p> <p>〈科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫〉 ○「疑問」「計画」が配置されており、見通しをもって観察・実験を行い、「理科の見方・考え方」を深められるようになっている。 ○探究の過程をマークで示すことで、限られた時間でも効率的に探究的な展開が行いやすくなっている。</p> <p>日常生活や他教科等との関連を図るための工夫 ○「ハローサイエンス」において、日常生活や職業との関わりを紹介し、身近な事柄にもたくさんの原理・原則が用いられ、理科の有用性が実感できるようになっている。 ○算数・数学で学習する内容には「ブリッジ算数」「ブリッジ数学」のマークをつけ、他教科との連携を図った指導ができるように工夫されている。</p>	
資 料	○「ハローサイエンス」では、科学技術と社会生活、自然・歴史・職業との関わりなどを示し、学びを深めることができる。また、科学技術について日常生活の中での活用を意識できるようになっている。 ○動画による補足説明や科学に関する情報をデジタルコンテンツ（まなびリンク）上に公開し、QRコードで読み取れるようになっている。 ○郷土の地形に関する写真が2枚使用されており、生徒の興味・関心を高めやすい。	
表記・表現	○本文には、第1学年には13ポイント相当、第2・3学年には12ポイント相当の大きな文字が使用され、重要語句や式は色付きの太字のゴシック体を使用し、目立つようにしている。 ○キャラクターによる会話やコメントとマーク等で、思考の手助けを行えるように工夫されている。また、全領域で課題や実験などの色を統一して表示している。	
総 括	○巻頭で「理科の学習の流れ」や「探究の進め方」を掲載しており、学習の流れを把握しやすいようになっている。 ○単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」、巻末に「学年末総合問題」「基礎技能」などがまとめられており、学習サポートが充実している。また、巻末には実習や観察で用いる厚紙のカードやシートも付けられている。	

書名 項目	<h1>未来へひろがるサイエンス</h1>	61 啓林館
内 容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○章末の「基本のチェック」等で、例題や練習問題に取り組むことでつまづきを起こさないように工夫されている。 ○QRコードにより、重要語句や基本事項の確認を繰り返し行えるようになっている。また、観察・実験の手順を細かく分け、図や写真を用いて分かりやすく示すとともに、QRコードから参考動画も視聴できるようになっている。 <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末の「探Qシート」等では、探究の進め方や方法を示している。また、「探Q実習」や「探Q実験」、「表現してみよう」等では生徒自身が考え、自分の言葉でまとめる活動を通して、思考力や表現力を高めることができるようになっている。 <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「ガイダンスページ」に探究の過程や流れがのっており、科学的に探究することがしやすいようになっている。 ○巻末の「探Qシート」を用いて、生徒が主体的に学習できるように工夫されている。 <p>〈科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○探究の過程がマークで示され、探究的な展開を基本とした構成になっている。 ○「疑問」「考えてみよう」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験が行えるように配慮されている。 <p>〈日常生活や他教科等との関連を図るための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科学コラムでは、部活動に関連した「部活ラボ」や食育につながる「お料理ラボ」、キャリア教育につながる「お仕事ラボ」など、実生活や実社会と関連のある内容が数多く載っている。 ○国語、社会、算数・数学等で学習した内容を「○○と関連」と掲載し、他教科との連携を図りやすいように配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○質、量ともに充実した「科学コラム」は、本文途中ではなく節末に置き、学習展開が途切れないうようになっており、科学の楽しさを伝える工夫がされている。 ○QRコードから動画や既習内容、学習内容の確認を見ることができるデジタルコンテンツが充実している。また、巻末には詳細な「サイエンス資料」も付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文や見出しなどにユニバーサルデザインフォントが採用されており、重要語句や式には太字のゴシック体が使われている。式は単位を付けて、下地の色を変えて表記している。 ○キャラクターによるコメントや会話を用いて、考えを深める手助けをしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○探究活動をする上での必要な資料や構成、内容が網羅されている。単元配列は、同一学年内での単元指導順序の入れ替えが自由に行えるように工夫されている。 ○章末の「基本のチェック」→単元末の「力だめし」→巻末の「学年末総合問題」「中学校総合問題」と順序立ててまとめられており、基礎・基本の確認から応用問題、科学的な思考力を要する問題、読解力を要する問題が充実している。 	